

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市黒松児童館	
2 指定管理者	公益財団法人仙台ひと・まち交流財団	
3 指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 17,067人(前年度比 124.4%) 令和3年度 13,714人 令和2年度 13,000人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 26,985千円 (27,070千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	19/19

三 評価総括

《指定管理者（公益財団法人仙台ひと・まち交流財団）による自己評価》
<p>利用者の皆さんが安心して楽しく快適に過ごせる場となるように、衛生面の配慮を始めとした環境整備に努めてまいりました。</p> <p>子育て家庭支援事業では、乳幼児親子を対象に、季節を感じられる行事の中で友だちとの交流ができるよう心がけました。特に0歳児親子は、児童館を初めて利用する方も多く、離乳食やかかりつけの病院等について熱心に情報交換する姿が見られました。また子育て支援クラブと共催の「宝箱スペシャル」で、遊戯室の床一面に広げた模造紙に思い思いに絵を描いたり、プラレールを好きなだけつなげて走らせたりと、家庭ではできないダイナミックな遊びを楽しむことができ、児童館の良さを生かした行事ということで好評を博しました。</p> <p>3年ぶりの開催となった「黒松市民センター&黒松児童館まつり」は、児童クラブ有志によるよさこいのステージ発表、遊びのコーナーでの「バックンシュート」やとすけ等、まつりらしいにぎやかな雰囲気を味わうことができました。「楽しかった！もう1回挑戦したい！」という声をたくさん頂き、次年度に向けての期待の高さが伝わってきました。地域のみなさんの交流の場、身近な物を工夫して遊ぶ情報発信の場として、まつりの存在の大きさを再確認する機会となりました。</p> <p>児童クラブは、「子ども会議」や日常の集まりの場を利用して、遊びのルールだけではなく、児童館の過ごし方を決められるように支援しています。話し合いの場で決まった事は、低学年にもわかりやすく視覚化してポスターにして貼り出し、いつでも確認できるようにしました。このような活動は、子どもたちの自主性や積極性を育み、子どもの権利を守る場として機能するよう心がけています。</p> <p>様々な遊びを通して、子どもたちが自己肯定感を高める機会になるように、今後も直接頂くご意見やアンケートの結果を反映させた児童館運営を行い、地域に貢献できる児童館を目指してまいります。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、「楽しもう！あ・そ・び」として手打ち野球やダブルダッチ等、月毎にテーマを設けて普段できない遊びを継続して楽しめる環境を整えたり、達人編として講師を招いて遊びの発展に繋げる支援を行った。また、チャレンジクラブ「よさこい」や「AKD」でダンスやドッチボール等、発達や年齢に応じた様々な遊びを提供し、子ども達の心身の健康と社会性を育んでいる。中高生の利用も多く小学生と関わる姿もみられており、異年齢交流を図れる支援や、職員と中高生とがゆっくりおしゃべりできる時間を確保するなど、心地よい居場所作りに努めている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、自由来館対象に様々な種類の車で遊べる「ぶーぶーひろば」やボール遊びができる「ボールひろば—」トランポリンや大型遊具で遊べる「くまっちーひろば」を実施し、毎日体を動かして遊べる環境を整えている。「くまっちー1」「くまっちークラブ」では多様な遊びを提供し、0歳児対象の「くまっちー0パーク」では畳敷きの部屋を使って実施する等、年齢発達に併せて環境を整え子どもと遊びながら保護者同士の交流が図れるよう支援している。</p> <p>地域交流推進事業においては、市民センターと黒松児童館が共催して、近隣の保育施設、放課後デイサービス、放課後子ども教室、子育て支援クラブと共にコロナ禍でもできる支援を考え『コロナ禍でのおすすめの遊び集』を「黒松地域の子育てネットワーク」として作成した。作成したDVDを各所に配布して子育て家庭支援に繋げており、地域と一体となって子育てしやすい環境作りに努めている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、遊戯室の使用時間を学年毎で割り振るだけでなく、学年を超えて誕生月で割り振るなど、日常の遊びを通して異年齢交流が持てるよう環境を整えている。毎月開催している「子ども会議」においては、水道の使い方やブランコの順番を待つ位置等、生活や遊びの中で子ども達が気になっている事を、子ども達自身が議題として提案し話し合っている。これらの活動や経験は、集団の中での子ども同士の円滑なコミュニケーションに繋がり、子ども達の社会性や自主性を育んでいる。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課